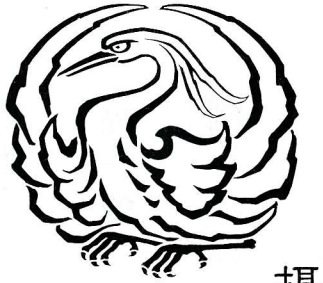
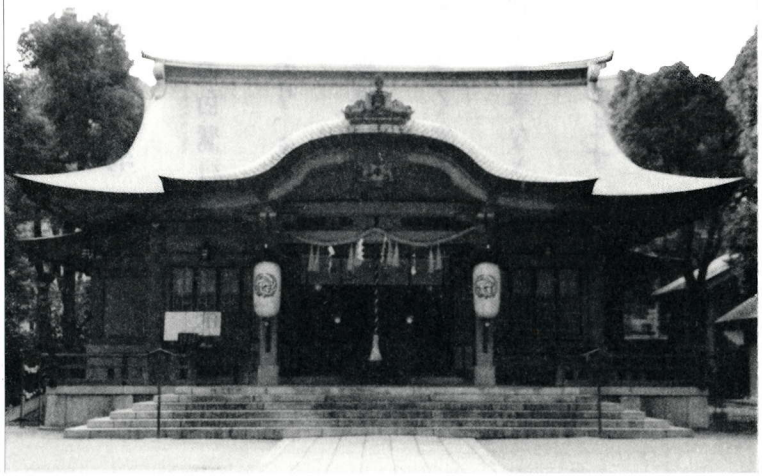


摂津国一之宮

坐摩神社御由緒略記



境内末社

大江神社
織維神社
大国主神社
天満宮
相殿神社
陶器神社
稲荷神社
〈境外末社〉
浪速神社
（大阪市浪速区浪速西）

行宮（御旅所）

豊磐間戸・奇磐間戸神社（大阪市中央区石町）

ご由緒に記しているように、当社の創祀は神功皇后がこの地に坐摩神を奉祀されたのが始まりとされています。

現在この地は坐摩神社行宮と称し、本殿には門戸・玄関・窓を守り給う豊磐間戸神・奇磐間戸神の二神が奉斎され、拝殿には神功皇后がご休息された鎮座石が今も残ります。石町という地名はこの鎮座石に由来します。

平安期には熊野詣が盛んになり、京都から摂津・和泉を経て熊野本宮に至る熊野古道沿いに熊野王子社が数多く設けられました。この地は淀川を船で下り、最初に参詣する第一王子とも呼ばれる渡辺王子社（別名窪津王子社）のもとの鎮座地ともいわれています。

祭儀

当社の恒例祭儀は数多くありますが、由緒ある大祭及び特殊神事等は左の通りです。

例祭（献花祭）	四月二十二日
夏季大祭	七月二十二日
秋季大祭	十月二十二日
鎮魂祭	二月節分当日
懸鳥祭	十二月二日
大祓式 夏越	六月三十日
師走	十二月三十一日

御祈祷のご案内

安産・旅行安全・厄除・事業繁栄等各種祈願
結婚式、随時受け付けております。

坐摩神社（いかすりじんじゃ）
（通称　ざまじんじゃ）

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町4丁目渡辺3号
（旧東区渡辺町）

地下鉄本町駅15番出口より徒歩3分

TEL.（06）6251－4792
FAX.（06）6251－4425
URL. http://www.ikasuri.or.jp

御祭神

生井神（いくゐのかみ）
福井神（さくゐのかみ）
綱長井神（つながゐのかみ）
波比岐神（はひきのかみ）
阿須波神（あすはのかみ）

五柱の御祭神を総称して坐摩神（いかすりのかみ）と申します。坐摩神は古語拾遺等によれば、神武天皇が即位された時、御神勅により宮中に奉斎されたのが起源とされ、坐摩（いかすり）の語源は諸説ありますが、土地又は居住地を守り給う意味の居所知（いかしり）が転じた名称といわれています。

御神紋

御神紋の白鷺（しらさぎ）は当社古来のものであり、その由来は神功皇后が坐摩神の御教により、白鷺の多く集まる場所に坐摩神を奉斎なさったという御由緒によります。

御由緒

当社の創祀には諸説がありますが、神功皇后が新羅より御帰還の折、淀川南岸の大江の岸・田簑島、のちの渡辺の地（現在の天満橋の西方、石町（こくまち）附近）に奉祀されたのが始まりとされています。平安時代の「延喜式」には攝津國西成郡（にしなりごおり）の唯一の大社と記され、産土神として今日に至っています。また、朱雀天皇の御代、天慶二年（九三九）以来祈雨十一社中に列し、以後たびたび祈雨［雨乞い］のご祈請・奉幣に預かりました。

天正十年（一五八二）豊臣秀吉の大坂築城に当たり替地を命ぜられ、寛永年間現在地に遷座されました。現在の鎮座地名を渡辺と称するのも、元の地名が移されたもので、全国の渡辺・渡部等の姓の発祥の地でもあります。旧社地と伝えられる石町には現在も当社の行宮（あんぐう）（御旅所）が鎮座されています。

明治元年（一八六八）の明治天皇大阪行幸の際には当社に御親拝なされ、相撲を天覧されました。

昭和十一年（一九三六）官幣中社に列せられた際に御造営された壮麗な御社殿は、残念ながら戦災により焼失しました。現在の御社殿は昭和三十四年（一九五九）に鉄筋コンクリート造で戦前の姿のままに復興されたものです。

御神徳

御祭神の御神徳は往古より宮域を守る神であることから、居住地を守り給う住居守護の神、また行路の安全を守り給う旅行安全の神、安産守護の神等として広く信仰を集めており、御祭神の名義から流水、井泉の神であり竈（かまど）神としても篤く奉斎されています。

安産の神としては、神功皇后が応神天皇の御安産を当社に御祈願になり、近くは明治天皇がお生まれになるとき特に宮中より御祈願があり、当社の秋季大祭当日［旧暦］に皇子が御降誕されました。

旅行安全の神としても、萬葉集に防人（さきもり）が旅立ちに際して坐摩神に行路の安全を祈願した歌が詠まれています。

にはなかの阿須波のかみにこしばさし
あれはいははむかへりくまでに

（萬葉集　四三五〇）